



この間、気象業務あるいは気象知識等への社会からの関心は益々高まってきております。このため、平成7年には気象庁から「今日の気象業務（所謂、「気象白書」）の発行が開始され、「気象庁ガイドブック」の発行、さらには、気象庁ホームページなど、気象関連の情報が益々充実してきています。

【基本的な方針】

- ① 「今日の気象業務」や「気象庁ガイドブック」など気象庁刊行物、気象庁HPを補完するものとして気象情報の利用者、事業者、防災関係機関、気象予報士、キャスター等が座右の書として利用できるものとする。「今日の気象業務」は、主に国（気象庁）の行政としての気象業務の動向と方向性を示す刊行物であり、「気象庁ガイドブック」は気象業務の個別の一覧を示すハンドブックの役割を果たしている。
- ② 「気象年鑑」は、気象等の観測・統計データを中心とした記録としての「資料・データ集」としての役割に重点を置きつつ、「特集」として、気象予報士やキャスター、防災関係者等を対象に最新の話題（自然災害の状況や現象のメカニズム）について焦点を絞って平易な解説を加え掲載する。
- ③ これまで「トピックス」や「内外の動向」として掲載していた気象業務の動向等については、「今日の気象業務」や「気象庁ガイドブック」との重複を避け、必要最小限のものとし、原則的に掲載しない。
- ④ 「今日の気象業務」と「気象庁ガイドブック」との結びつきを強めるため、巻末に両者の簡単な紹介を掲載する。

⑥「気象年鑑」として 1967 年より 48 年間続けて刊行され、気象等の記録へのニーズは全体的に高く、継続性を重視する。

⑦「資料・データ集」の内容については、現行の掲載資料・データを基本として全体のバランスを見つつ、個別事項について、その内容の拡充・縮小も含め編集する。

⑨ 利活用・普及の促進を図るため、「気象予報士会」、「気象友の会」、「気象学会」等に協力を求め、会報誌等での周知をお願いする。

「グラビア」・平成 26 年 8 月 19 日から 20 日にかけて広島県広島市で発生した土砂災害
・平成 26 年 9 月 27 日の御嶽山噴火

1. 集中豪雨と線状降水帯～バックビルディング型形成～（気象研究所 加藤室長）
2. 近年発生した大雨の実態とメカニズム～気象研究所の分析結果より～
3. 大雨の長期変化と地球温暖化（気象庁 高槻地球温暖化対策調整官）
4. 大雨の観測・統計の記録

「資料・データ集」

1. 2014 年（平成 26 年）の気象の記録
2. 2014 年（平成 26 年）の地震・火山の記録
3. 2014 年（平成 26 年）の地球環境・海洋の記録
4. 参考資料

「気象年鑑 2015 年版」は、近日中に発売され、賛助会員の皆様にお届けする予定ですので、是非ともご一読頂き、ご意見・ご指導を頂ければ幸いです。

また、来年度の 2016 年度版は、いよいよ 50 回目の記念すべき号となります。引き続き、気象庁のご協力を頂きつつ、時宜を得た特集を組み、資料・データ集としての継続性を確保し、『生きた気象庁知識の普及版として広く各界から歓迎されるに違いない』と言って頂けるよう努めたいと考えております。

（振興部）